

若者が「つどう」まちづくり 人口Up、賑わいUp、シャッターUpの UpUp大作戦

小澄 秀之¹・江藤 友紀²・小川 雅稔³・宮田 宏美⁴・右田 一樹⁵

¹菊池市役所 市民環境部 環境課 係長

²菊池市役所 総務部 人権啓発課 参事

³菊池市役所 建設部 都市整備課 主任主事

⁴菊池市役所 政策企画部 企画振興課 主事

⁵菊池市役所 総務部 総務課 主事

本政策では、菊池市における若年層の転出超過を食い止めるため、ターゲットを「若者」に設定し、若者の人材育成、世代間コミュニティ、空き店舗活用という3つの施策により、若者が魅力を感じる菊池市の実現を図ります。1つ目の施策は、若者を対象に人材育成と起業支援を目的とした料理人や雑貨職人を育成する講座を開設し、将来的な起業・独立を支援します。2つ目は空き店舗の活用を目的とした、空き店舗の調査やオーナーの意向確認を行います。3つ目は起業希望者と空き店舗オーナーの交流により、起業・独立を行いやすい環境を整えます。この施策の実施にあたり重要なのが、本音で語り合う「本音酒」などの関わり合いの場を設け、貸す側である店舗オーナーと借りる側の若者との信頼関係を築くことです。本政策を、菊池市に新たに整備される生涯学習センターを拠点として展開し、若者が「つどう」まちづくりに取り組みます。

1. 政策提案の背景

平成28年3月に策定した、菊池市長期人口ビジョンによると、進学・就職等に係る15歳から24歳までの若年層世代において、転出者数が転入者数を上回る「転出超過」が大部分を占めています。（市全体では年間300人程度の減に対し、若年層世代では年間600人弱の減となっています。）その原因としては、若者が市に魅力を感じていない事、頑固な年長者（もっこす）と若者の考え方にギャップがある事、よそ者を受け入れたがらない風潮がある事などが考えられます。

2. 政策提案によって解決したい課題

菊池市が今後も魅力的なまちであるためには、若者の活躍が必要であると考えます。そのためにも、現在、若者が市外へ流出している状況を改善し、若者が菊池市で活躍できる環境に変えていく必要があります。

菊池市総合計画の市民アンケート調査（平成29年3月）によると、菊池市の20代及び30代の「菊池市に住み続けたくない理由」の主なものとして、「市内に働く場所がない」「地域の行事や近所づきあいが面倒だから」などの理由が挙げられています。

また、若者の市外への流出傾向も影響し、市内商店街の後継者不足により、中心市街地において空き店舗が増加しているという問題も抱えています。

私たちは、この「働く場所がない」「コミュニケーションが面倒」「市街地の空き店舗の増加」という課題を解決し、若者が魅力を感じる菊池市にしたいと考えました。

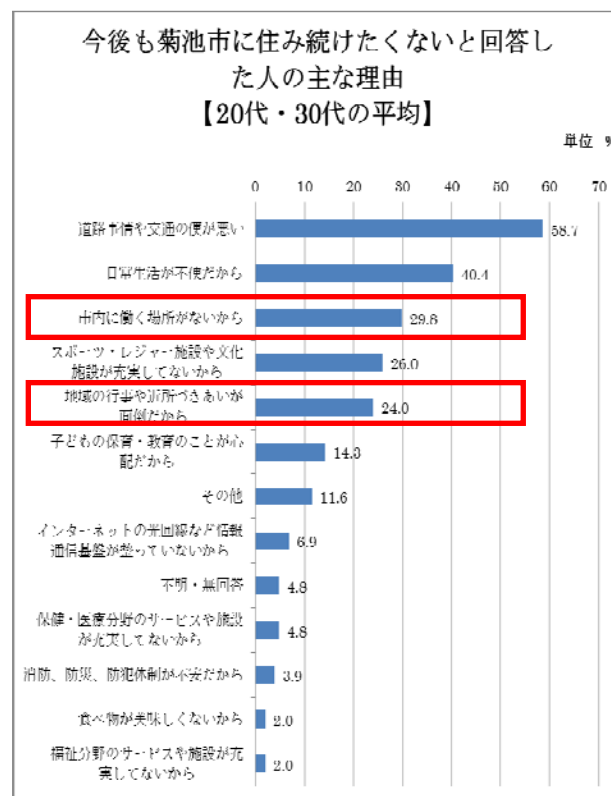


図-1 今後も菊池市に住み続けたくない理由
(第2次菊池市総合計画市民アンケート)

3. 課題解決策の特徴、重要性、有効性

菊池市では、11月下旬に公民館と図書館の複合施設である生涯学習センターが中心市街地にオープンします。課題の解決策として、このセンターを拠点として、次の3つの政策に取り組みます。

1つ目は大学生や新規就労者などの若者を対象に人材育成・起業支援を目的とした料理人や雑貨職人を育成する講座を開設し、将来的な起業・独立を支援します。拠点となる生涯学習センターには、調理室、工作室が整備されており、料理人の育成は、調理室、雑貨職人の育成は工作室を利用します。

- ・受講料 1,000円×24回
- ・講師 当初はプロに依頼、サイクルができれば受講者OB
- ・期間 1年間 月2回

2つ目は空き店舗の活用を目的とした、空き店舗の調査やオーナーの意向確認を行います。

空き店舗の調査や、オーナーの意向調査には、菊池市で活躍する地域おこし協力隊や商工会と連携して進めます。実際に空き店舗を貸しているオーナーからの経験や思いをつづったダイレクトメールを、空き店舗を所有するオーナーへ送付するなど、空き店舗解消にむけたオーナーの意識づくりを行います。

3つ目は起業希望者と空き店舗オーナーとのマッチングを行い、空き店舗をリノベーションすることで、まちなかの賑わいを創出します。生涯学習センターにおいて、空き店舗調査で調べたオーナー意向などを踏まえて、受講者と空き店舗オーナーとの交流を深めます。

前述した政策を一過性のものとせず、適宜講座メニューの見直しなどを行いながら、一連のサイクルとして確立し、継続的に取り組んでいくことが重要です。さらに、人材育成からチャレンジショップなどの起業前の段階で、菊池産の食材や地域の人と交流する機会を設けることで、菊池への愛着と誇りを育みます。そうすることで、若者にも魅力を感じられる市に繋がっていくと考えます。

この提案では、若者の働く場所がないという課題と、空き店舗が増加しているという課題を組み合わせる方法を考えています。中心市街地に新たに整備される生涯学習センターを拠点とし、若者の就業のための講座を開設するとともに、起業の準備段階として、空き店舗や廃校を活用したチャレンジショップにより、地域に入る基盤の育成と、将来の空き店舗での起業へと繋がります。ここで大切なのが、若者（受講者）とオーナーが起業前の段階で寝食を共にし、本音を語りあいながらお酒を酌み交わす『本音酒』などの関わり合いの場を提供することです。菊池市の空き店舗は、店舗と住居が1つの建物であるため、借りる側との信頼関係がなければ活用が進まないと考えられます。この「貸したいが不安」という部分に対して本提案は有効です。また、生涯学習センターでチャレンジショップを開催することで、図書館を利用する多くの小中高生に、菊池産の食材を利用した料理を実際に食べてもらい、農業や食材についての学びの場を提供し、菊池を誇る気持ちを育てます。

市内の空き店舗、廃校跡地、拠点など施設の有効活用を図りながら、受講者やオーナーなど広い世代に対し関わり合いの場を提供することで、世代を超えた地域コミュニティを形成することができます。